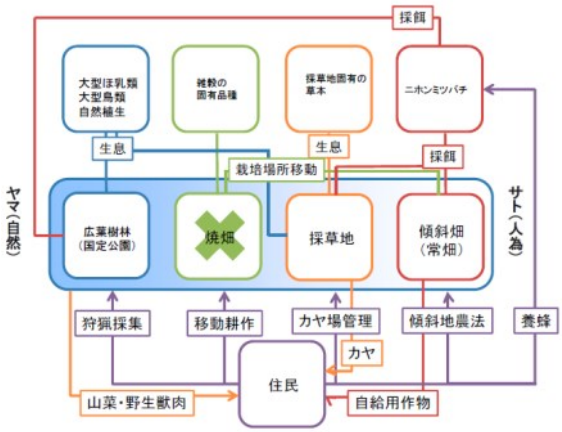
事例１９　徳島剣山世界農業遺産推進協議会　徳島県

徳島剣山の急傾斜地を持続的に利用する農耕技術体系

活動場所

位置……剣山北嶺に位置する山間部の集落群

・フィールドタイプ……その他（採草地・畑）



傾斜地農業システム概念図

活動の目的

剣山の北嶺に分布する集落では、最大40度に及ぶ極急傾斜地で土壌流失を防ぎながら持続的な農耕を継続してきました。そのために①敷草（カヤ）の施用、深い耕起による土壌の創出、伝統農具による流亡土壌の復元からなる技術体系が存在します。敷草を採取する採草地には稀少植物を含む70種以上の植物が保全されています。また、雑穀品種の遺伝資源が動的に保全されています。協議会は持続的な保全にむけた取り組みを行っています。

傾斜畑での耕作風景

活動の内容

協議会では下記の事業を進めることにより、世界食糧農業機関（ＦＡＯ）による世界農業遺産の認定に向けた取り組みを行うとともに、当該エリアの多様な動植物と、それらを支える在来農耕システムを保全しています。

・学術的調査
　農業土木技術に関する調査、採草地の生物多様性調査、
　雑穀品種に関する調査、農文化に関する調査
・保全・継承に関する活動
　伝統農具制作技術の継承、農業研修の開催、採草地の保全、
　農耕儀礼の復活・継承
・普及・活用に関する活動
　シンポジウム・ワークショップの開催、雑穀を使った商品開発
　グリーンツーリズムの推進　ほか

設立：平成２６年７月１０日

シンポジウムの様子

今後の展望

協議会では、傾斜地農耕システムの保全活動を継続して行うことにより、世界農業遺産認定を目指すとともに、中山間地が多い日本で発展したユニークな農耕システムを維持することで国土保全、地域の発展を目指す。

一言コメント

徳島県西部の山間部に生きる人びとは、農耕には適さない急傾斜地を、近世から20世紀まで続いた葉タバコ栽培等の常畑として利用してきました。地域の自然環境、生物種、文化･社会を生み出したユニークな農耕システムを、地元住民、行政、企業、研究者、各種団体、地域外の人々などの多様なアクターと保全しています。

実施体制

構成員：地元住民、研究者、行政等
　三好市、美馬市、東みよし町、つるぎ町、ＪＡみよし・ＪＡ美馬、徳島県・徳島大学・各種支援団体ほか

事務局：つるぎ町商工観光課、つるぎ町企画課

連絡先：TEL 0883-62-3111